

(二月の言葉 (令和八年))

欲や打算のない人は いない。

お念仏を、どのような気持ちで聞き、称となえていますか。
“ご利益があるから” という気持ちが多量なりともある
のであれば、お念仏までも損得勘定の中に組み入れるこ
とになってしまいます。なんと欲にまみれたことでしょ
う。

さまざまな煩惱に右往左往する愚かな私という存在
が、今ここにあります。でも、「悲観することはない。」
これが親鸞の立場です。

遠い昔から今この時まで、私たちは煩惱にまみれ、欲
や打算に明け暮れてきました。だからこそ、阿弥陀さま
は、そういう私たちのあり方を哀れに思い、救おうと立
ち上がってくださったのです。

その阿弥陀さまの慈悲(本願)をありがたく受けとめ、
感謝の思いを込めて称えるのが、親鸞聖人が説かれたお
念仏なのです。